

国立大学法人和歌山大学中期目標

平成20年3月25日 文部科学大臣提示

(前文)大学の基本的な目標

和歌山大学は、歴史と伝統を重んじ、進取の気性を育みながら常に社会に貢献してきたことを誇りとし、今後も世界と日本の知の拠点及び地域のリーダーとしてより一層の貢献を行い、社会から信頼と尊敬を得られる学問の府であることをその役割・使命とする。

そのため、自主・自律の精神にのっとり、教育研究をはじめとする大学機能の充実・発展に努める。

和歌山大学は、地域社会に根ざした大学として、地域社会の求める人材を養成するとともに、地域の教育、文化、産業、経済などの発展に寄与する。

学生の教育においては、知識偏重に陥ることなく学生個人の多様な能力を重視し、目的意識をもった自主的で創造性ある学生を育成する。

研究においては、世界に向かって情報発信できる内容を持つことを目指し、COEとなれるレベルの研究、地域に貢献できる研究、特徴あるオンリーワン研究を推進する。

これらの目標を実現するために、常に組織や制度の見直しと改革を行い、時代の変化に柔軟に対応できる活力ある大学運営を推進する。

中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

平成16年4月1日～22年3月31日(6年間)

2 教育研究上の基本組織

この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科を置く。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1)教育の成果に関する目標

現代を切り拓く社会人として、豊かな人間性と高い倫理性を有し、広い視野と国際性を具え、高度の専門的知識や技術を習得した、社会のニーズに的確に対応できる人材を育成する。

(学士課程)

基礎教育の充実を図る。各学部においては、それぞれの専門的能力を持った学生を育成する。さらに学部を越えた教育を通じて、幅広い発想の出来る人材を育成する。

(大学院課程)

広い視野で時代の要請を的確につかみ、複雑な課題に対して適切な解決の道を見いだせる専門的職業人や研究者を育成する。

(2)教育内容等に関する目標

本学の人材養成目標に照らして、適切な人材を広範囲にかつ柔軟に受け入れる。この基本方針を達成するために効果的な入学者選抜方法を採用する。

教育内容を高度化するための教育方法とカリキュラム及び成績評価方法を確立する。

(3)教育の実施体制等に関する目標

教職員の適正な配置に努める。

柔軟かつ大胆な教育の実施体制を実現する。

教育改善のための体制を確立する。

教員の教育評価制度を確立する。

附属図書館をはじめとする学習環境を整備、拡充する。

(4) 学生への支援に関する目標

入学時から卒業時までの体系的な学習支援体制を実現する。

セクシュアルハラスメント等、学生のさまざまな悩みに応える相談体制を充実し、より快適なキャンパスライフを実現する。

キャリア教育を含め、就職支援を強化する。

教育の機会均等を実現するため、バリアフリー環境の実現を目指す。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

知の拠点として高度の研究を推進し、成果を社会に公表し、研究活動の活性化を図る。特に優れた研究分野については、大学の戦略的研究分野として位置づけ、全学的なバックアップ体制をとる。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

教職員の適正な配置に努める。

研究活動の活性化と研究環境の整備に努める。

研究評価システムを構築する。

研究面のデータベース化を進め、学外への情報発信や企業との共同研究などに効果的に活用する。

大学全体における知的財産の管理を行うシステムを確立させる。

3 その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

大学の持つ知的資産を広く地域に発信する。教育面においては、地域の中核機関として、地域貢献・地域連携を強化する。また、研究面では、地域の高等教育機関及び地域のシンクタンクとして機能していく。

国際化・グローバル化の中で、海外の大学・教育機関等との国際交流を積極的に促進し、地域の国際化にも貢献する。

(2) 附属学校に関する目標

自由で先進的な伝統を持つ附属学校での児童・生徒の教育のあり方を不断に検証し、更なる充実を目指す。

学部学生の教育実習の場としての機能の充実を図り、教育実習を適正に実施する。

学部・大学院における教育研究に積極的に協力し、先進的実験的な研究を行い、その成果を地域の教育界に還元する。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

学長のリーダーシップにより、高い効率性を確保した組織運営を実施するとともに、全構成員の積極的参加による組織運営を促進し、これらの有機的な結合を図る。

学内の基本的な資源配分体制等を構築し、戦略的な資源配分を実現していく。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

教育及び研究に関する目標を達成するため、教育研究の進展や社会的要請に応じた適切な評価に基づき、教育研究組織の弾力的な設計と改組転換を進める。

大学院独立研究科(博士課程)の設置を目指す。

3 人事の適正化に関する目標

公正かつ透明性の高い採用方法を実施する。

弾力的な職務分担を実現する。

給与等の面での適切な処遇を行う。

教職員の研修を促進する。

「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)において示された改革の実行計画を踏まえ、人件費削減の取組を行う。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標

事務組織の再構築を進めるとともに、事務系職員の組織運営能力を開発し、大学の管理運営面への参画を推進する。

アウトソーシングを積極的に活用する。

各種事務の集中化・電算化等により、事務処理の簡素化・迅速化を図る。

全学データベースシステムを構築し、大学全体として情報の有効活用を促進する。

財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

科学研究費補助金など外部研究資金、その他自己収入の増加を図る。

大学施設を積極的に開放する。

2 経費の抑制に関する目標

省エネルギー対策、管理業務の節減、効率的な施設運営等により固定的経費の抑制を図る。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

資産の適正な運用管理の体制等により有効活用を促進する。

社会への説明責任に関する目標

1 評価の充実に関する目標

自己点検評価を行い、結果を効率良く学内運営にフィードバックする。

学内外の意見を反映できる機能を整備する。

2 情報公開等の推進に関する目標

学内の各種情報を積極的に公開する。

大学の持つ知的資源及び教育研究成果について社会に公開する。

その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

大学への通学・通勤の利便性を高める。

施設マネジメントシステムを構築する。

2 安全管理に関する目標

安全管理・健康管理について、全学的に安全衛生管理体制の強化に取り組む。

自然災害などに備えて防災活動を充実する。

(別紙)

国立大学法人和歌山大学における学部及び研究科について

別表(学部、研究科等)

学 部	教育学部 経済学部 システム工学部 観光学部
研 究 科	教育学研究科 経済学研究科 システム工学研究科